

プレスリリース

日興アセットマネジメント株式会社

日興アセット、ハウスビューを更新 グローバル株式へのスタンスをニュートラルに変更

- 米企業業績および株価への楽観的な見方が後退、
グローバル株式をオーバーウェイトからニュートラル(中立)に変更
- FRB の金融引き締め時期の予想を 2015 年 10 月もしくは 12 月に変更
- 中国経済の低迷は続いているが、ハードランディング状態にはない
- 日本とユーロ圏の株式は今後 6 カ月間にわたりアウトパフォームが期待される

日興アセットマネジメント(以下、「日興アセット」)のグローバル投資委員会(GIC)は、米国の企業業績や株価に対する楽観的な見方を後退させ、2011 年 9 月以降のほとんどの期間において継続していたグローバル株式のオーバーウェイトをニュートラル(中立)に引き下げることを決定しました。加えて GIC は、米連邦準備制度理事会(FRB)による金融引き締め時期の予想を従来の 9 月から 10 月に変更しました。

日興アセットのチーフ・グローバル・ストラテジスト兼 GIC 議長であるジョン・ヴェイルは、次のように述べています。「グローバル株式のバリュエーションは合理的で適正な水準にあり、欧州、日本およびオーストラリアの株式は上昇余地もあるとみています。その一方で、米景気の先行きについての楽観的な見方を後退させており、特に足元のボラティリティ(価格変動)の高まりを踏まえると、グローバル株式全体に対して強気になるべきとは考えていません。当社は 2011 年 9 月以降、1 四半期を除いてグローバル株式に対するオーバーウェイトを継続してきましたが、現在はニュートラルが妥当なスタンスだと判断しています」。

日興アセットの世界各拠点の運用プロフェッショナルにより構成された GIC は、米国株式は 2016 年 3 月までの今後 6 カ月間、アンダーパフォームすると予想しています。S&P 500 は、今後 12 カ月ベースの予想 PER が 16.5 倍と歴史的にみて高い水準にあります。また、GIC は、過去 2 四半期の間、アンダーウェイトとすることで成功を収めたユーロ圏の株式をオーバーウェイトに引き上げるとともに、欧州と日本は今後 6 カ月にわたりアウトパフォームするだろうと指摘しています。

ジョン・ヴェイルは、「ユーロ圏の株価は、企業収益の増加と地域経済の成長が持続することにより、弱さを見せた過去 2 四半期の後、リバウンドするとみています。ユーロは対米ドルで弱含むと予想していますが、にもかかわらずユーロ圏の株式は、米ドルベースで 12 月末までに 2.9%(非年率換算)、2016 年 3 月末までに 5.1%(同)のリターンが期待できるとみており、スタンスをオーバーウェイトに変更します」と述べています。

GIC は、日本の企業収益について、低迷した 2015 年第 3 四半期の後の 2 四半期については増加傾向をたどると予想しています。日本の株式については、米ドルベースで 2016 年 3 月末までに 5.5%(非年率換算)のリターンが期待できるとみています。

ジョン・ヴェイルは、「アベノミクスは、特に日本企業に関して十分に機能しており、2015 年第 2 四半期の税引き前利益は製造業と非製造業の両業種ともに歴史的な高水準にまで急増しました。株式投資家が

らみても優れた効果を上げているということができ、これは今後も続くともっています」と述べています。

GICは、FRBの金融引き締め時期の予想を10月に変更するとともに、FRBが米連邦公開市場委員会(FOMC)1回おきに25ベースポイントずつ利上げを実施すると予想しています。GICは2015年6月の会合では、FRBの金融引き締め実施を9月と予想していました。

ジョン・ヴェイルは、「FRBは、最近の世界の金融市場の混乱と、仮に悪いタイミングで利上げに踏み切った場合に後に厳しく責任を問われることを考慮して、グローバル市場が安定を取り戻し、利上げが景気減速につながらないと確信できるまで、もう少し時間をかけたかったということだろうとみえています。誰もが知るとおり、最初の利上げが実施される可能性のあるFOMCは10月です。12月は年末休暇に近く、最初の利上げのタイミングとしては理想的とはいえませんが、もし10月の実施が見送られれば12月となる可能性が高いでしょう」と述べています。

中国経済についてGICは、中国は依然、より均衡のとれた経済への移行に苦しんでいます。全体としてハードランディング状態にはないと指摘しています。

ジョン・ヴェイルは、「確かに足元の中国株相場と人民元のボラティリティの高さは中国の信頼性を低下させていますが、今後2四半期の成長率は市場のコンセンサスをやや下回る6.4%(季節調整済み、年率換算、前半期比)と予想しています」と述べています。

日興アセットのGICは9月17日に会合を開き、世界経済情勢の四半期レビューを行ないました。世界中の運用プロフェッショナルの調査結果に基づき、日興アセットは世界の主要な市場と資産クラスについてのハウスビューを定期的にアップデートしています。最新の主な見通しは以下のとおりです *1。

- 日本: 2015年10月～2016年3月末のGDP成長率は1.5%(季節調整済み、前半期比)。
株価は2016年3月末までの半年間にTOPIXで8.5%上昇(円ベース)
- 米国: 2015年10月～2016年3月末のGDP成長率は2.6%(季節調整済み、前半期比)。
株価は2016年3月末までの半年間にS&P500で0.1%下落(米ドルベース)
- ユーロ圏: 2015年10月～2016年3月末のGDP成長率は1.9%(季節調整済み、前半期比)。
株価は2016年3月末までの半年間にMSCI Europeで8.0%上昇(ユーロベース)

以上

*1 日興アセットの基準日である2015年9月11日からの比較。

(注)特に断りのない限り、日付はすべて暦年ベースです。

当資料は日興アセットマネジメントが市場環境等についてお伝えすること等を目的として作成した資料であり、特定商品の勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。資料中において個別銘柄またはセクターに言及する場合がありますが、これは当該銘柄またはセクターの組入れを約束するものでも売買を推奨するものでもありません。当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成日現在のものです。また、当資料に示す意見は、特に断りのない限り当資料作成日現在の見解を示すものです。当資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。尚、資料中の見解には弊社のものでなく著者の個人的なものも含まれていることがあり、予告なしに変更することもあります。

当資料は弊社の広報担当者の事前の許可なく転載及び引用される事を固く禁じております。内容についてご不明な点等ございましたら弊社広報 03-6447-6775 までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメントについて

日興アセットマネジメントは、日本そしてアジアを代表するグローバルな運用会社であり、世界の投資家の皆様に一流の投資ソリューションを提供しています。世界 30 以上の国から集まる豊富な人材を世界 11 カ国に擁し、約 200 名*の運用プロフェッショナルが 19 兆円余り**の資産を運用しています。55 年の実践を経た投資哲学をアジアから世界へ広げていきます。

(上記データはすべて 2015 年 6 月末現在)

* 日興アセットマネジメント株式会社および連結子会社の役社員を含む。

** 日興アセットマネジメント株式会社および海外子会社の連結運用資産残高(投資助言を含む)の 2015 年 6 月末現在のデータ

日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 368 号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

日興アセットマネジメント株式会社

〒107-6242 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

www.nikkoam.com